

学校教育目標	社会を「生き抜く力」を育む ～自ら学び、心身共にたくましい児童の育成～(15歳の目指す姿を見据えて)		総合評価
運営方針	○使命感・責任感・情熱をもって取り組む教職員集団で、子どもたちが「元気に登校 笑顔で下校」する学校づくりを推進して、「社会を生き抜く力」を育てる。 ○3G(言語活動、五條学、学校運営協議会)を大切にしたい学校づくりを推進して、保護者や地域の人々から愛され信頼される学校を目指す。		B
令和2年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	
○学習の「めあて」と「ふりかえり」をつなげることができるようになり、記述問題を無回答で提出する児童が減った。 ○様々な取組で読書に興味をもつ児童が増えた。 ○挨拶の声が大きくなり、自分から挨拶する児童が増えてきた。 ○外遊びチャレンジを充実させ、県内でも上位を占めることができた。 ○体育学習の充実、多様な外遊びにより児童の体力向上を推進することができた。 ●「読み取る力」とともに、基礎・基本の学力を向上させるため、焦点化した取組を実施する必要がある。 ●学力の二極化とともに、学習意欲の二極化を解消する必要がある。特に、自主学習の取組については、来年度の最重要課題として取り組む必要がある。 ●継続した挨拶指導と児童主体の挨拶運動を進め、年間を通して挨拶に対する意識を高くもち、校内のみならず、校外に出ても自主的に挨拶ができる児童の育成を目指す。 ●「五夢りん宣言」を職員は指導の中で、児童は生活の中で意識していくことで自己の生活を見直し、規律ある学校生活の充実を図る必要がある。	◎確かな学力をつける。	○学習意欲を高める授業展開や指導の工夫を充実させる。 ○学習習慣を定着させ、自主学習の充実と質の向上を図る。	
	◎豊かな心を育てる。	○自分から進んで気持ちのよいあいさつを交わし、他者との関わりの中で、伝え合い、認め合える児童を育成する。 ○地域社会へ貢献したり、地域教育力を積極的に導入したりする活動を進める。	
	◎心身ともに健康健全な生活を目指す。	○自ら進んで基本的な生活習慣を身につけさせようとする意識を高める。 ○自分の課題を明確にし、課題に応じた活動を計画的に取り入れるとともに、運動好きを増やすための体育学習の充実を目指す。	

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
確かな学力をつける。	○学習意欲を高める授業展開や指導の工夫を充実させる。	主体的で対話的な深い学びの実現を目指すとともに、「よみとる力」と系統的に基礎・基本の力を身に付ける取組を実施し、標準調査全国平均を上回る。	B	説明的文章に重きを置き、各学年が系統立てた「よみとる力」を研究してきたことで、根拠となることを叙述や図、表から読み取る力を高めることができた。しかし、標準調査は全国平均を上回ることができていない。また、音読の充実や、朝学習での漢字テストを行うことで国語科における「基礎・基本の力」である「正しい音読」と「正しい書き取り」の定着を図ったが学習が苦手な児童への定着には課題が残る。	・授業研究部で国語のテストの選定を行い、学期末テストを活用して「よみとる力」の向上を見取る。 ・基礎学力の向上を目指し、パワーアップタイム等の活用を通して、「できる」という経験を多くもたせる。 ・辞書引きと音読指導を継続して行う。 ・学級全体の児童が思考を深められる発問計画を立てていけるよう教員研修を充実させる。	・タブレットの導入により、子どもの意見を汲み入れた、主体的、対話的な深い学びの授業を今後も進めてほしい。 ・学力向上のために、「書力」も気にはなるが、同時に「読解力」を高める取組の充実も引き続き力を入れて欲しい。 ・読書に親しむことは良い事だと思ふ。継続的に取り組んでほしい。
	○学習習慣を定着させ、自主学習の充実と質の向上を図る。	図書支援員との連携のもと、おすすめの本の設定や読書貯金に取り組み、児童の平均読書冊数を一人40冊(高学年は4000ページ)以上にする。 自主学習の手引きを活用し、モデルを通して、意欲的に取り組む児童を8割以上にするとともに、質の高い自主学習ノートの実現に向けた取組を充実させる。	A	低・中学年では平均50冊、4000ページに達した。朝読書の習慣が定着してきたり、読書意欲を高めるための取組を行ったことにより、読書への興味を高めることができた。しかし、高学年では平均2000ページほどしか達成できていない。読書においても二極化がみられ、意欲が低い児童への働きかけが課題である。 自主学習ノートに意欲的に取り組む児童は全体の7割ほどで、目標には届かなかったが、毎日の積み重ねで、質の高い自主学習ができる児童が増えた。その一方、すでに身に付けている学習のみをいたり、めあてと振り返りがリンクしていなかったりする自主学習もみられる。	・面展を使った図書のコーナーを作る。 ・朝会等を活用して本の紹介を強化する。 ・毎日読書の宿題を出し、貯金通帳への記入を徹底させる。 ・めあてにリンクした振り返りを徹底させる。 ・自主学習コンテストや自主学習ノート交流等で、児童同士の相互評価をさせる。	・成果と課題の「学校支援の方法を一層考えていく必要がある」とについては五條小学校らしい支援方法を考え、今後に活かせるようにしてほしい。 ・タブレットを使った学習が子ども達に定着してきた。更なる活用を図るため、継続的に職員研修を行ってほしい。
			B			
豊かな心を育てる。	○自分から進んで気持ちのよいあいさつを交わし、他者との関わりの中で、伝え合い、認め合える児童を育成する。	継続した挨拶指導と児童主体の挨拶運動を進め、年間を通して挨拶に対する意識を高くもち、自主的に挨拶する児童を9割以上にする。 児童の自尊感情の向上を図る取組を推進し、自他を思いやる気持ちを養い、学校が楽しいという児童を9割以上にする。	B	9割の児童が「自ら進んで挨拶をする」と回答した。継続して指導したり、挨拶モデルを示したりしたことが成果につながったと考える。今後も新たな取組も加えながら、取組を継続していきたい。	・運営委員会と連携して、新たな取組「5G」運動を推進する。 ・「挨拶名人」「挨拶名人分団」を掲示する。 ・五條中学校の生徒会と連携した挨拶運動を行う。 ・研究推進と連携して振り返りを充実させるための感情の表現・語彙を増やしていくための手立てを行う。 ・年間計画に沿ったエンカウンターやピアサポートを実施する。	・「心」に関しては、非常に難しいところである。ほぼA評価です。ので、持続できるように願う。 ・大きな声での挨拶もなかなか難しい状況、手をあげて横断する姿ともいいと思う。挨拶には「会釈する」「手をあげて挨拶」等もある。いろいろな挨拶についても子ども達に教えてあげてほしい。 ・「振り返り挨拶」が定着しつつある。ご指導のお陰だと思ふ。
	○地域社会へ貢献したり、地域教育力を積極的に導入したりする活動を進める。	地域ボランティアとの連携のもと、ふるさと学習の深化、充実を図り、ふるさとを大切に思う児童の割合を9割以上にする。 地域教材や地域人材を取り入れた活動の充実を図る。	A	昨年度よりも地域との関わりを増やすことができ、9割以上の児童が「ふるさとを大切にしたい」と思うことができた。今後は、発信の機会づくりや「伝える力」の育成にも力を注ぎたい。 地域の公園や施設を利用したり、出前授業に来ていただいたり、地下道の掃除をしたりと、今できる範囲の中で活動を充実させたことで、五條の魅力を知ることができた。今後も様々な地域教材を活用しながら、自分のふるさとを大切に思う児童を育てていきたい。	・各学年の「五條学」を更新していく。 ・地域人材、地域教材を積極的に活用し、職員間で共有していく。 ・職員研修を充実させる。 ・五條カルタをより一層活用する。 ・ふるさとを自慢したり発信したりする場を設定する。	
			A			
心身ともに健康健全な生活を目指す。	○自ら進んで基本的な生活習慣を身につけさせようとする意識を高める。	『元気アップ週間』の取組を通して、基本的な生活習慣を定着させるために保護者と連携を図り、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身につけている児童を9割以上にする。 『五夢りん宣言』を実生活でさらに意識させるための取組を充実させ、自己の生活を見直し、規律ある学校生活の定着を図る。	B	「朝ご飯を食べている」児童は94%と目標を達成できたが、「早寝早起きできた」児童は70%ほどだった。一方、アウトメディア(メディア機器を使わない時間をもつ)に取り組めた児童が60〜70%だったことから、ゲームや動画視聴による生活リズムの崩れが考えられるため、その改善を図る取組を一層行っていく必要がある。 「五夢りん宣言」から1日のめあてを決めたことで、めあてを意識して学校生活を送る児童が増えた。一方で五夢りん宣言が形だけのものになってしまっている児童もいる。「五夢りん宣言」を意識した指導を継続し、有効活用していく必要がある。	・アウトメディアに関する指導を継続的に行う。 ・ネット、スマホの出前授業を低学年から行う。 ・学級懇談会等で家庭へ啓発する。 ・「五夢りん宣言」の重点目標を設定する。 ・週や月ごとの重点めあてを設定し、帰りの会で達成できたか振り返りを行う。	・コロナ禍の中、安心・安全な取組を実施し、最大限の努力をして頂いている。 ・生活習慣の改善を図るため、特にゲームや動画視聴時間の現状、使用時間の短縮を保護者と連携して、一層改善し、早寝早起きの実現を目指してほしい。
	○自分の課題を明確にし、課題に応じた活動を計画的に取り入れるとともに、運動好きを増やすための体育学習の充実を目指す。	1年間を通してなわとび運動に取り組むとともに、外遊びチャレンジ登録数を400以上にする。 個々に課題をもたせ、目標を設定し、意欲をもって運動に取り組ませるとともに、体育の学習等を充実させ、体を動かすのが好きだという児童を8割以上にする。	A	得意、不得意がつきにくいなわとびを継続したことで、運動意欲の向上につながった。外遊びチャレンジ登録数も400件を超えることができた。外遊びチャレンジのほとんどがなわとびに偏ったため、ほかの種目への取組も進めていきたい。 目標である8割の児童が「体を動かすのが好きだ」と答えた。安全で分かりやすい場や、個々に応じた課題を設定したことで、意欲的に運動に取り組む姿がみられた。ICTを活用し、自分の動きを動画で確認できたことも、意欲向上につながった。体育学習カードの有効的な活用が今後の課題である。	・授業で他種目へのチャレンジを実施し、意欲を高める。 ・校内外遊びチャレンジ大会等を開催する。 ・学習カードや場づくりの充実を図る。 ・技能面の児童の実態を次年度に引き継ぐ。 ・「お家でパワーアップ運動」を実施する。 ・小中、小高の連携を活用する。	・脂肪過多症の児童が散見される。身体を動かすことの大切さは、大人になってからも課題である。家庭環境の改善も課題ではないかと思う。中学校の運動の厳しさに絶えられないように、今から少しずつ慣らしてあげてほしい。
			A			
今年度の成果と次年度への課題	[成果] ○全校で系統的に「読み取る力」についての取組を進めることで、様々な資料や文章から、自分の意見の根拠を導き出すことが、徐々に出来るようになってきた。 ○ICTの活用や教材研究の工夫により「授業は楽しい8割」の目標に迫ることが出来た。 ○構成的グループエンカウンターやピアサポートに取り組んだことで、学校生活の随所で児童の自尊感情の高まりを感じる事が出来た。 ○体育科においてICTを活用しながら個別の課題を設定したことで、意欲的に運動に取り組む姿が見られるようになった。		[課題] ○本校の学力は、学力調査全国平均に及んでない。自主学習ノートに意欲的に取り組むの割合も目標値に達していない ○学習が苦手な児童が意欲的に学習に取り組めるように、教材の工夫・ICT機器の活用方法等について更に研修を深める必要がある。 ○家庭学習(自主学習)に取り組む児童は増えてきたが、めあてと振り返りがリンクした内容になるよう、モデルの提示や、学習の方法について継続的に指導する必要がある。 ○アウトメディアの日を設定する等を行ったが、ゲームや動画視聴による生活の乱れが依然として見られる。保護者への啓発や、研修会等の開催をすることで改善していかなければならない。			